

平成 27 年度 春期 プロジェクトマネージャ試験 解答例

午後 I 試験

問 1

出題趣旨	
<p>プロジェクトマネージャ (PM) が、プロジェクトに関わるステークホルダを認識し、適切にマネジメントすることは、プロジェクトを成功裏に進める上で非常に重要である。</p> <p>本問では、海外の提携先企業からのシステム導入を題材に、PM としてステークホルダの現在の状況を認識し、望ましい状況に変えるための対策を立案する実践的な能力を問う。</p>	

設問	解答例・解答の要点	備考
設問 1	(1) 現システムからの移行作業	
	(2) X 社の監査員による監査	
設問 2	関与度、影響度がともに高い領域にステークホルダがいない状態	
設問 3	(1) ステークホルダとプロジェクトとの一体感を形成すること	
	(2) ・プロジェクトの推進役 ・関与度、影響度ともに高いステークホルダ	
	(3) 事前に正確な理解を得て対策を共有したいから	
	(4) X 社標準システム稼働後の運用業務を T 社に担当してもらう必要があること	
	(5) ・Y 氏と X 社の関与度と影響度を望ましい姿に変える。 ・X 社の影響力の行使を、Y 氏を通して行う形に変える。	

問 2

出題趣旨	
<p>プロジェクトマネージャ (PM) は、プロジェクトの目的を踏まえ、自社の状況やステークホルダの特性を考慮してプロジェクトの計画立案やリスクへの対応を行う必要がある。</p> <p>本問では、倉庫管理用ソフトウェアパッケージの導入におけるソフトウェアパッケージの選定からプロジェクト計画の立案までを題材に、与えられた条件の下でのプロジェクト計画の立案、リスクの認識及び対応について、PM としての実践的な能力を問う。</p>	

設問	解答例・解答の要点	備考
設問 1	D 社はソフトウェアパッケージの導入経験がないから	
設問 2	(1) MWS 導入による新しい業務プロセスへの理解を深めてもらうこと	
	(2) ・性能の検証 ・非機能要件の検証	
設問 3	(1) キーパーソンが、業務プロセスの変更が現場に受け入れられるか不安を抱いているから	
	(2) MWS の標準機能及び標準プロセスで業務が運用できることを確認すること	
	(3) ・追加開発の要件を把握させ、追加開発チームをスムーズに立ち上げたいから ・追加開発の要件を把握させ、工数を見積もらせたいから	
設問 4	(1) ・MWS の標準機能を使って実現できないかどうかを検討する。 ・MWS の標準機能に合わせるように業務プロセスを見直す。	
	(2) 業務の効率向上が図られていること	

問3

出題趣旨	
<p>プロジェクトマネージャ（PM）には、プロジェクトの実行段階でやむを得ない事情によってスコープの変更への対応が必要になる場合がある。そのような場合でも、PMは、スコープの変更に対応した上で、プロジェクトの目標を確実に達成できるように配慮することが重要である。</p> <p>本問では、スコープの変更への対応が必要となった事例を題材に、スコープの変更に当たってプロジェクトの目標の達成を図りつつ、前提条件及び制約事項についてステークホルダとの調整を的確に行った上で、プロジェクト計画の変更の検討を行うこと、スコープの変更に伴うリスクを漏れなく洗い出しその対策を講じること、さらにスコープの変更が必要になった原因に着目し再発防止に努めることなどの、PMとしての的確に対応するための実践的な能力を問う。</p>	

設問	解答例・解答の要点	備考
設問1	(1) 最新の現行事務マニュアルと外部設計書との突合せ	
	(2) <ul style="list-style-type: none"> ・変更予定があるかどうかの確認 ・未反映の項目がないかどうかの確認 	
設問2	追加要員の教育に想定以上の時間が掛かる。	
設問3	(1) <ul style="list-style-type: none"> ・当初開発分のプログラムバグへの対応結果の取込み漏れ ・当初開発分の設計ミスへの対応結果の取込み漏れ 	
	(2) 追加開発分の影響を受けない部分の洗い出しを行う。	
	(3) <ul style="list-style-type: none"> ・上流工程での品質の確保 ・テストでのバグ発生の抑止 	
設問4	(1) <ul style="list-style-type: none"> ・操作訓練を円滑に立ち上げることができるから ・内容を事前に理解した上で操作訓練に参加できるから 	
	(2) <ul style="list-style-type: none"> ・質問や改善要望が多発して並行運用が進まない。 ・現状どおり手作業で処理してしまう。 	